

福岡県アレルギー疾患医療連絡協議会  
(2019.7.31)

「最近の他県の拠点病院の状況、及び  
全国共通の講習・講演資料について」

# 第68回 日本アレルギー学会学術大会

## 教育講演15

# 「アレルギー疾患対策基本法の 現状と今後の展望」

NHO 福岡病院

名誉院長

西間三馨

(2019.6.16)

## 2018年から進行中のもの

---

1. 県拠点病院におけるモデル事業(千葉、山梨、三重の3県)
  2. 最新知見を提供する公式ウェブサイト構築(アレルギーポータルサイトとして2018年10月19日Webオープン)
  3. 地方拠点病院の指定(昨年末で約20府県)及び都道府県アレルギー疾患医療連絡協議会の開催
  4. 公的研修会の共通資料作成
  5. アレルギー電話相談とその主な相談内容の資料作成とWeb掲載
  6. 研究10カ年戦略の作成と公表(2019年1月)
  7. 厚労省保育所におけるアレルギー対応GL改訂
  8. 文科省学校GLの改訂
  9. 新たな視点として「保健指導」の実施 とマニュアル作成
-

# 免疫アレルギー疾患実用化研究分野

アレルギー疾患対策基本法等  
政策と連携した研究開発の推進

## 目的・概要

- ・病因・病態の解明等に関する研究
- ・予防、診断及び治療法に関する基礎的研究の成果・シーズを新規創薬、医療技術等実用化につなげる研究開発を進め、患者のQOLの維持・向上を目指す。

## アレルギー疾患領域

- ・アトピー性皮膚炎
- ・気管支喘息、花粉症、アレルギー性鼻炎、
- ・アレルギー性結膜炎
- ・食物アレルギー、薬剤アレルギー
- ・その他アレルゲンに起因する免疫反応に関わる疾患

## 免疫疾患領域

- ・関節リウマチや皮膚・粘膜臓器の異常に起因する疾患等、何らかの免疫反応が関与する疾患

P P I

患者・市民参画（PPI）

GUIDE

ガイドブック

BOOK

～患者と研究者の協働を目指す第一歩として～



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構  
Japan Agency for Medical Research and Development

**PPI : Patient and Public Involvement**

小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2002

# 患者さんとその家族のための ぜんそくハンドブック2004

■監修 古田榮生／西岡三徳 ■作成 日本小児アレルギー学会



協和企画

# 家族と専門医が一緒に作った 小児ぜんそくハンドブック2008



「家族と専門医が一緒に作った小児ぜんそくハンドブック2008」作成委員会

監修  
日本小児アレルギー学会

協和企画

# アレルギーポータルサイトのゴール

- 広く国民全体を対象として正しい知見の普及を促す。
- 確かな情報がきわめて重要な乳児期・幼少期・学童期における養育者(特に母親)、思春期・青年期の患者さんに向けて、モバイルフレンドリーな情報を発信する。
- なかでも携帯端末での容易な検索・視聴に注力する。
- 情報レイアウトやキャラクターなど、画面の見やすさを追求する。

患者さんや医師・医療従事者・学生を問わず、  
**「だれでも、どこでも」** 信頼できるアレルギー疾患の  
病態・検査・治療（薬剤を含む）情報を得ることを可能にする。



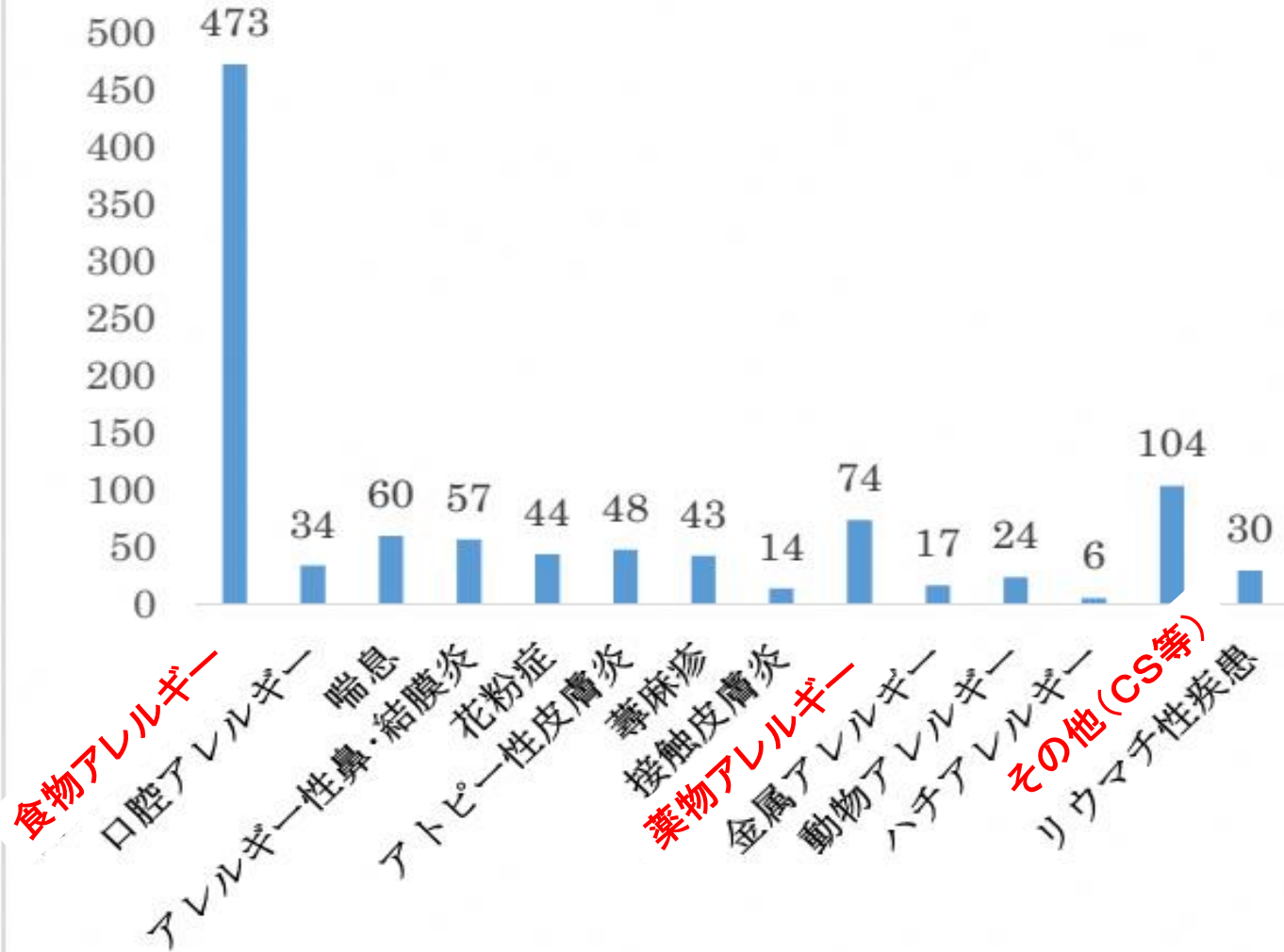
# アレルギー相談センター Q&A

食物アレルギーについての  
1000の相談から選んだ50

近日アップ !!

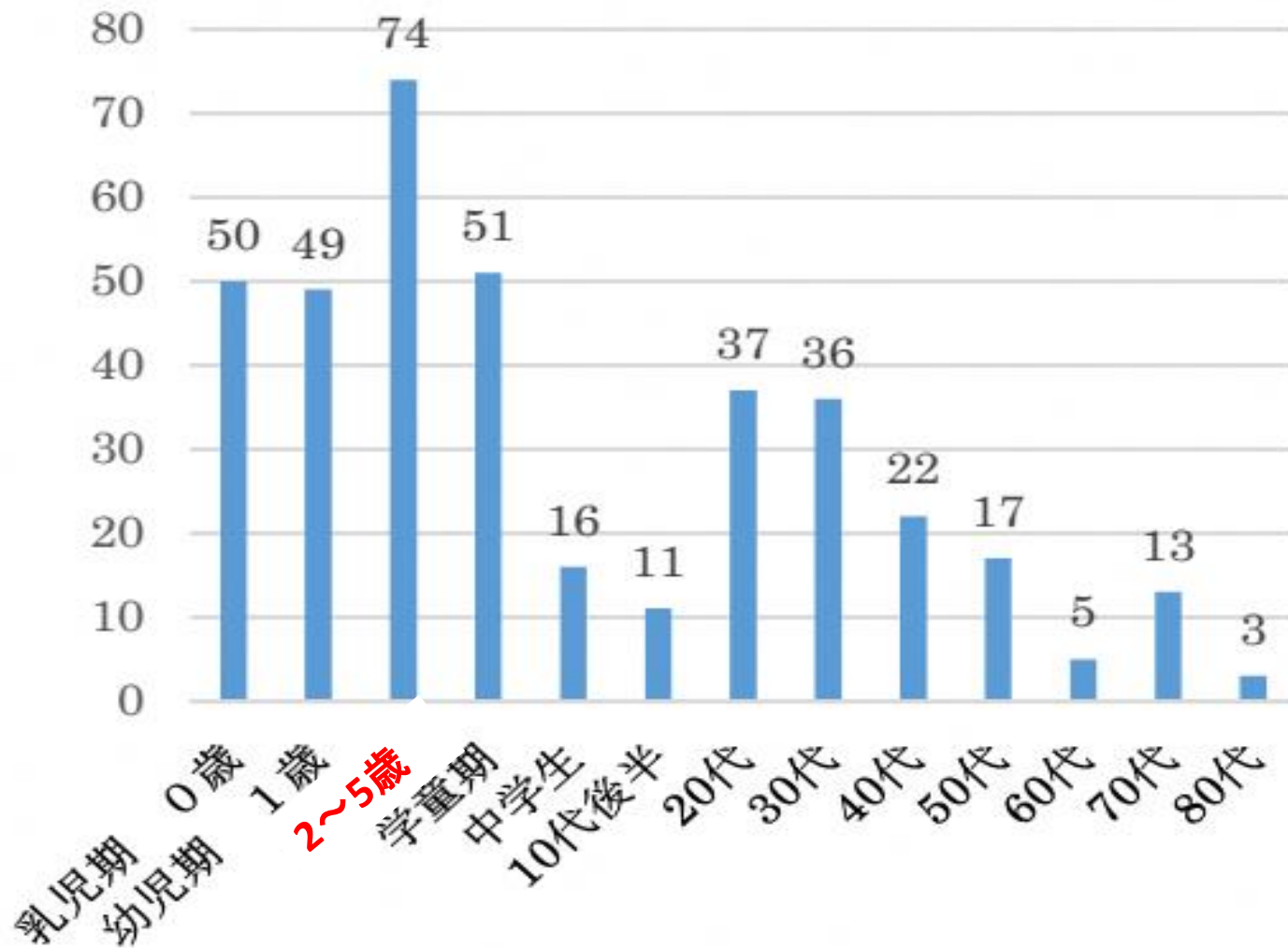


# 疾患 相談内容 (1028件)



(平成29年度 アレルギー電話相談事業 実績報告)

## 食物アレルギーの相談対象年齢



(平成29年度 アレルギー電話相談事業 実績報告)

# アレルギー疾患都道府県拠点病院モデル事業

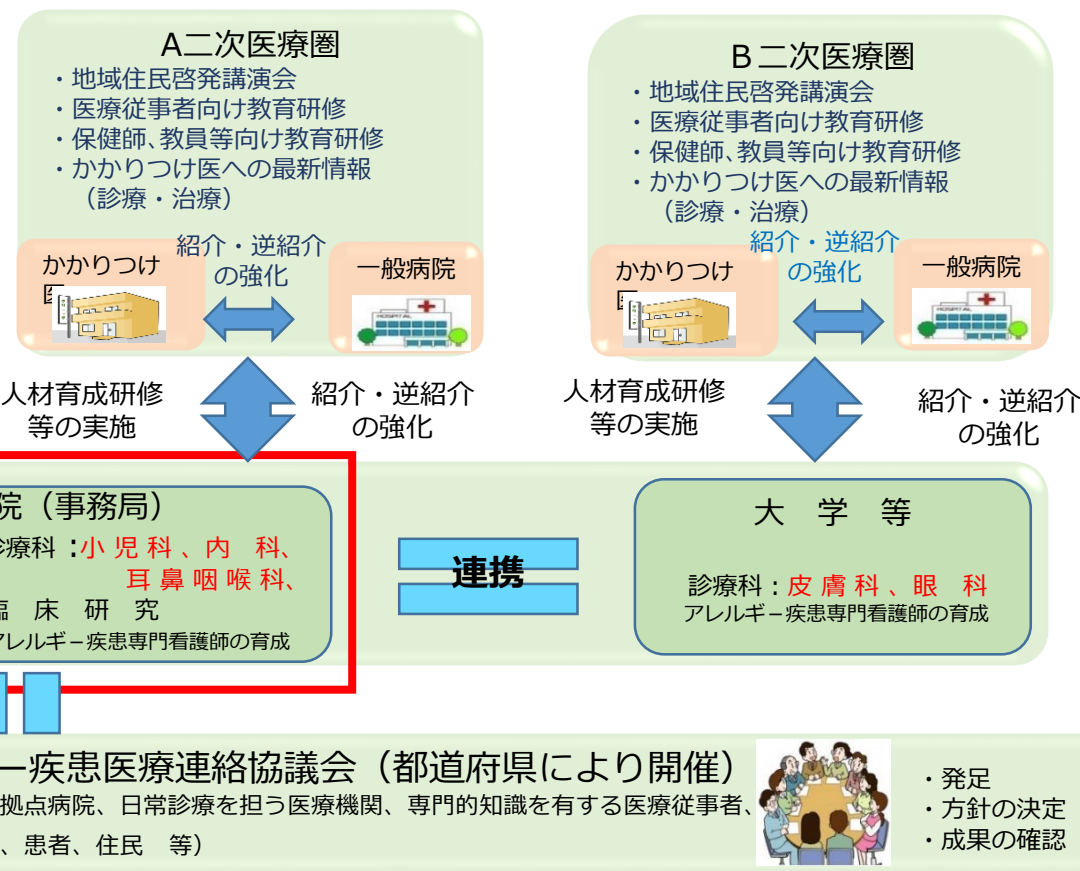
## (事業目的)

- ・「アレルギー疾患対策基本指針」により、都道府県はアレルギー疾患に係る医療提供体制を検討することとされているが、医療提供体制は各地域で状況が多様であり、標準的な体制が現状存在しない。
- ・当該モデル事業を実施することで、各都道府県が行うアレルギー医療提供体制構築の一助とする。

## 【事業実施イメージ (案)】

モデル事業として、

- ・拠点病院内や、関係する医療圏内での患者相談への対応
- ・アレルギーに係る医療従事者育成のための研修
- ・一般病院への診療支援等を実施する際に支援を行う。



# 山梨大学医学部附属病院

## ●体制

- ・病院内にアレルギーセンターを設置し、基礎医学系講座も関与した体制を構築（主に耳鼻科・皮膚科）
- ・小児の食物経口負荷試験も今後実施していく

## ●取組事業

### (1)相談対応

- ・HPメール相談（各科医師が回答）
- ・AIを用いたFAQサイトの開設

### (2)研修会実施

- ・地域の多職種に対する研修会
- ・院内での研修会の充実

### (3)情報提供

- ・市民公開講座
- ・HP開設によるウェブでの情報
- ・行政と連携した調査研究の実施

### (4)診断等支援

- ・食物経口負荷試験の開始

# 山梨県アレルギー疾患対策の課題と今後の取り組みについて

※◎下線部が今後取り組みが必要と思われるもの

拠点病院：H30.6月に県がアレルギー疾患医療拠点病院と指定した山梨大学医学部附属病院(アレルギーセンター)

アンケート結果からの課題	取り組みの方向性	現状と今後必要と思われる取り組み
<p><b>県政モニターアンケート結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答者の8割近い方が何らかのアレルギー症状があった。</li> <li>・アレルギー性鼻炎や花粉症では5割の方が受診・治療をしていなかった。</li> <li>・県に対しての要望では、情報提供への要望が多く、提供内容では「知識や情報、医療機関に関するもの」であった。</li> <li>・県への要望では、「保健・福祉・医療関係者の知識の向上への取り組み」も多かった。</li> <li>・アレルギーの対策への意見が多かった。</li> <li>・医療体制の充実への意見が多かった。</li> <li>・相談体制の充実への意見が多かった。</li> </ul>		<p>安心して暮らすための情報を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関情報</li> <li>・正しい知識</li> <li>・スキンケアに関することなど</li> </ul> <p>アレルギーの軽減</p>
<p><b>医療機関調査の結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー専門医が少ない。</li> <li>・診療医の知識不足や情報不足</li> <li>・診療体制が不十分</li> <li>・アレルギーセンターへの期待が大きい。(検査機能・研修会・情報発信・重症患者の受入・高度医療・研究・相談機能)</li> </ul>		<p>アレルギー疾患関係者の人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門医の確保</li> <li>・関係者の知識向上</li> <li>・スキンケア技術普及など</li> </ul>
<p><b>乳幼児調査の結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー症状では気管支ぜん息が一番多かった。</li> <li>・乳児期にはスキンケアを毎日実施している割合は7割であったが、幼児になると5割以下と減少している。</li> <li>・県への要望は、情報提供(医療機関や正しい知識、スキンケアに対するもの等)</li> <li>・その他の要望として、医療体制の整備</li> <li>・その他の要望として、食物アレルギーの相談をしたい。</li> </ul>		<p>診療体制の充実</p> <p>生活の質の維持・向上のための支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談機能の充実等</li> </ul>

# 国立病院機構 三重病院

## ●体制

・三重大学医学部附属病院も拠点病院として指定を受けており、2施設が連携した体制を構築

(三重病院としては、主に、内科・小児科・耳鼻科)

## ●取組事業

### (1)相談対応

・小児アレルギーエデュケーター  
(PAE)による電話相談(週2回)

### (2)研修会実施

・地域医師会と連携した研修会  
・市民公開講座

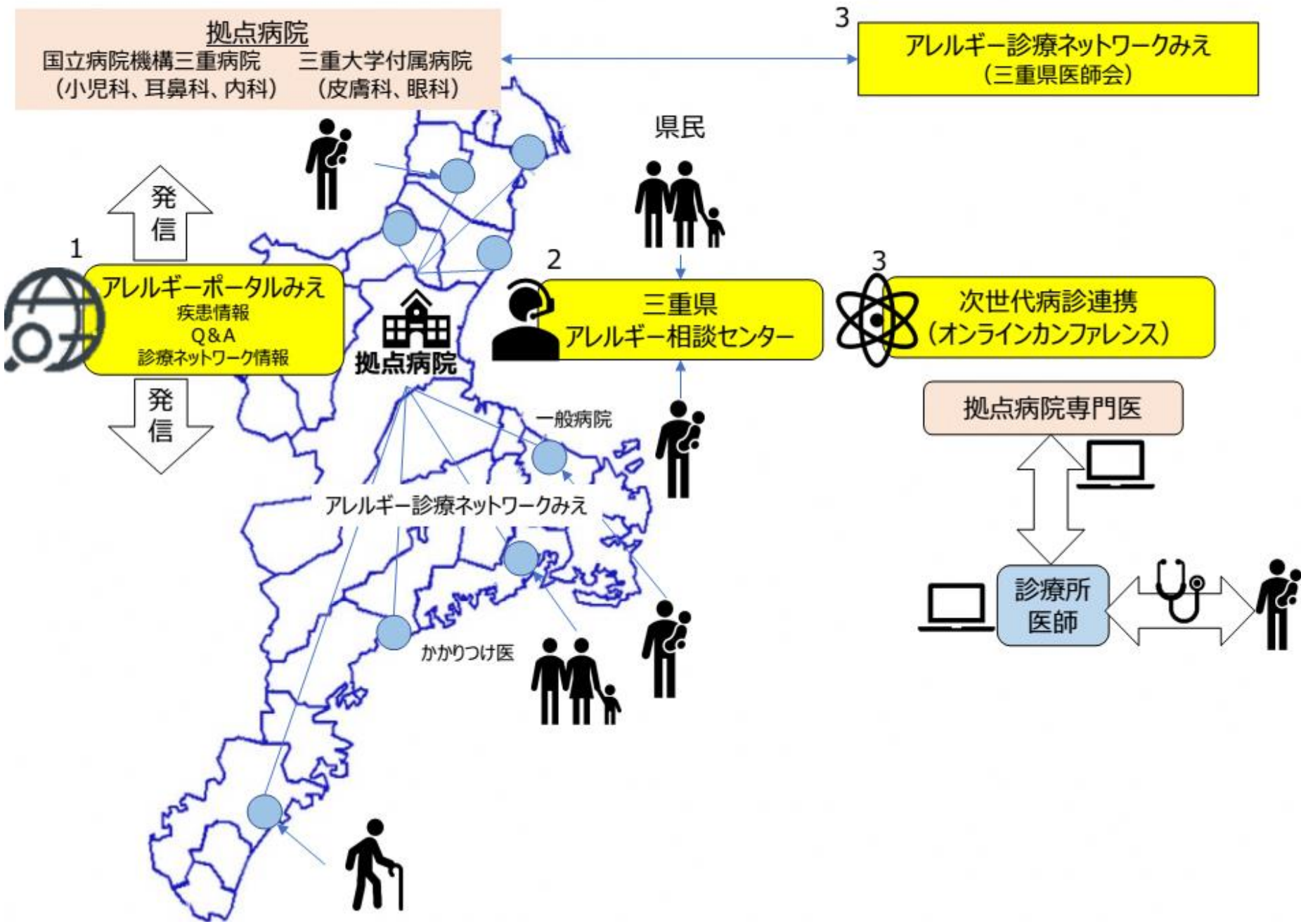
### (3)情報提供

・アレルギーポータルみえ開設  
・啓発イベント(年2回)

### (4)診断等支援

・県内医療機関とのオンライン病診  
連携システムの整備

# 三重県アレルギー疾患対策モデル事業



# 千葉大学医学部附属病院

## ●体制

- ・病院内にアレルギーセンターを設置し、専属のPAEを配置し、連絡体制等が整備（主に内科、小児科、耳鼻科、皮膚科）

## ●取組事業

### (1) 相談対応

- ・PAE電話相談とHPメール相談
- ・ピアサポート（NPO・患者会協力）

### (2) 研修会実施

- ・院内外での研修会（医師会連携）
- ・市民公開講座
- ・専門的な栄養士育成（NPO連携）

### (3) 情報提供

- ・県内の医療機関に関する情報
- ・実態調査と結果公開

### (4) 診断等支援

- ・食物経口負荷試験の県内連携  
（一般医でのプロトコール標準化）



アレルギー専門診療所

● すべてのアイテム

アレルギー専門医療機関

★ すべてのアイテム

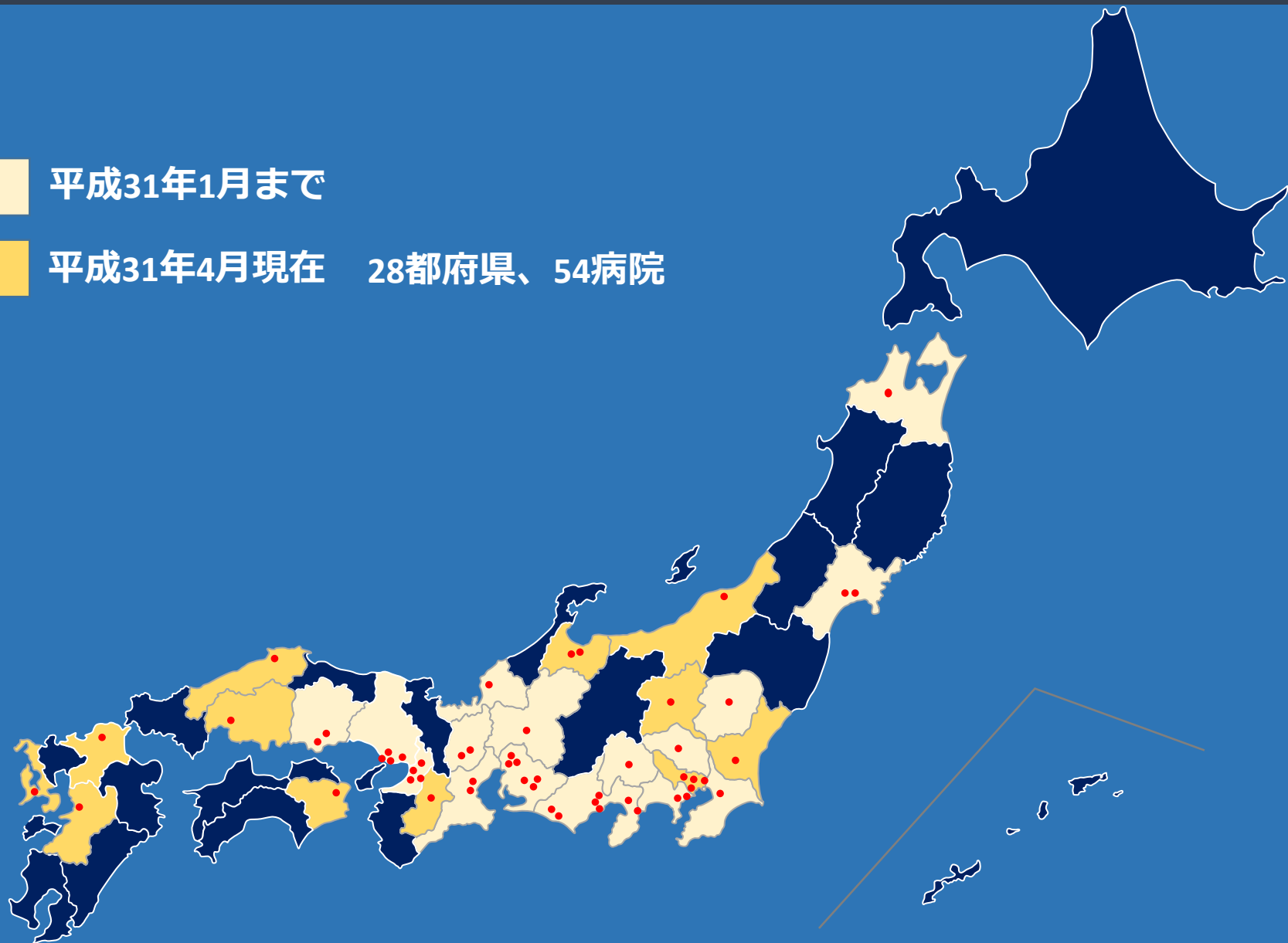
アレルギー拠点病院

★ 千葉大学医学部附属病院



# 都道府県アレルギー疾患拠点病院 選定状況

- 平成31年1月まで
- 平成31年4月現在 28都府県、54病院



平成31年度 リウマチ・アレルギー疾患対策予算額について  
 (アレルギー疾患対策基本指針等を踏まえたアレルギー疾患対策の強化)

平成30年度 31年度予算額  
 6.8億円 → 8.1億円

○ アレルギー情報センター事業(補助先:日本アレルギー学会)

平成30年度 31予算額  
 41百万円 41百万円

- ①アレルギー疾患に係る最新の知見に基づいた正しい情報等を提供するためのウェブサイトの作成
- ②リウマチ・アレルギー疾患を有する者への対応が求められることが多い施設関係者に対する研修会の開催
- ③アレルギー疾患を有する者への対応が求められることが多い施設関係者向け研修資料の作成 等

○ アレルギー疾患医療提供体制整備事業(補助先:中心拠点病院)

平成30年度 31予算額  
 17百万円 23百万円

- ①アレルギー疾患の診療連携ネットワークの構築
- ②アレルギー疾患医療の診断等支援
- ③アレルギー疾患に係る医師等に対する研修支援事業
- ④一般国民等からのアレルギーに関する相談事業

増

○ アレルギー疾患都道府県拠点病院モデル事業(補助先:公募(都道府県拠点病院))

平成30年度 31予算額  
 31百万円 31百万円

- ①アレルギー疾患の診療連携体制の構築
- ②アレルギー疾患医療の診断等支援

○ リウマチ・アレルギー特別対策事業(補助先:都道府県等)

平成30年度 31予算額  
 14百万円 76百万円

- ①アレルギー疾患医療連絡協議会の開催(地域政策の策定)
- ②医療従事者、保健師・助産師、福祉施設従事者向け研修の実施
- ③患者カードの配付の促進並びに患者の自己管理等正しい知識の普及啓発事業の実施
- ④喘息死並びにリウマチ及びアレルギー系疾患診療担当医師(医療機関)名簿や医療連携事例集の作成等による医療情報の提供

等

増

○ 厚生労働科学研究費等補助金及び保健衛生医療調査等推進事業費補助金

平成30年度 31予算額  
 576百万円 640百万円

- ①アレルギー疾患対策に必要とされる大規模疫学調査に関する研究
- ②オールジャパンネットワーク構築等に立脚した花粉症等免疫アレルギー疾患の根拠的治療開発研究

等

増

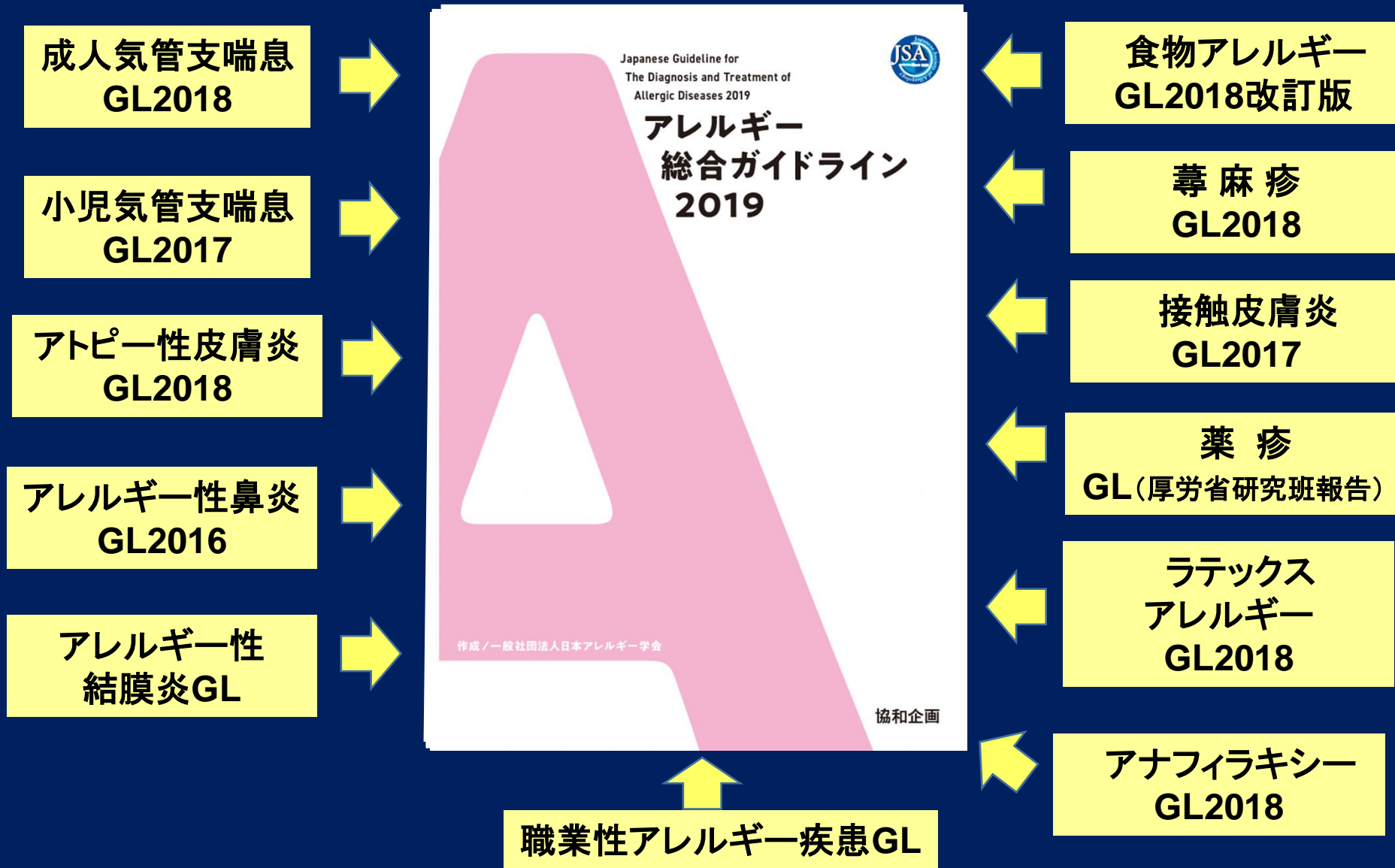


図3. アレルギー総合ガイドライン2019

# 平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)

## アレルギー疾患に対する保健指導マニュアル開発のための研究 研究班

### 研究代表者

足立 雄一 富山大学大学院医学薬学研究部小児科学講座

### 研究分担者

大矢 幸弘 国立成育医療研究センターアレルギーセンター

海老澤元宏 国立病院機構相模原病院臨床研究センター

伊藤 浩明 あいち小児保健医療総合センター総合診療科部

吉原 重美 獨協医科大学医学部小児科学講座

下条 直樹 千葉大学大学院医学研究院小児病態学

藤澤 隆夫 国立病院機構三重病院アレルギー科

赤澤 晃 東京都立小児総合医療センターアレルギー科

# 小児のアレルギー疾患 保健指導の手引き



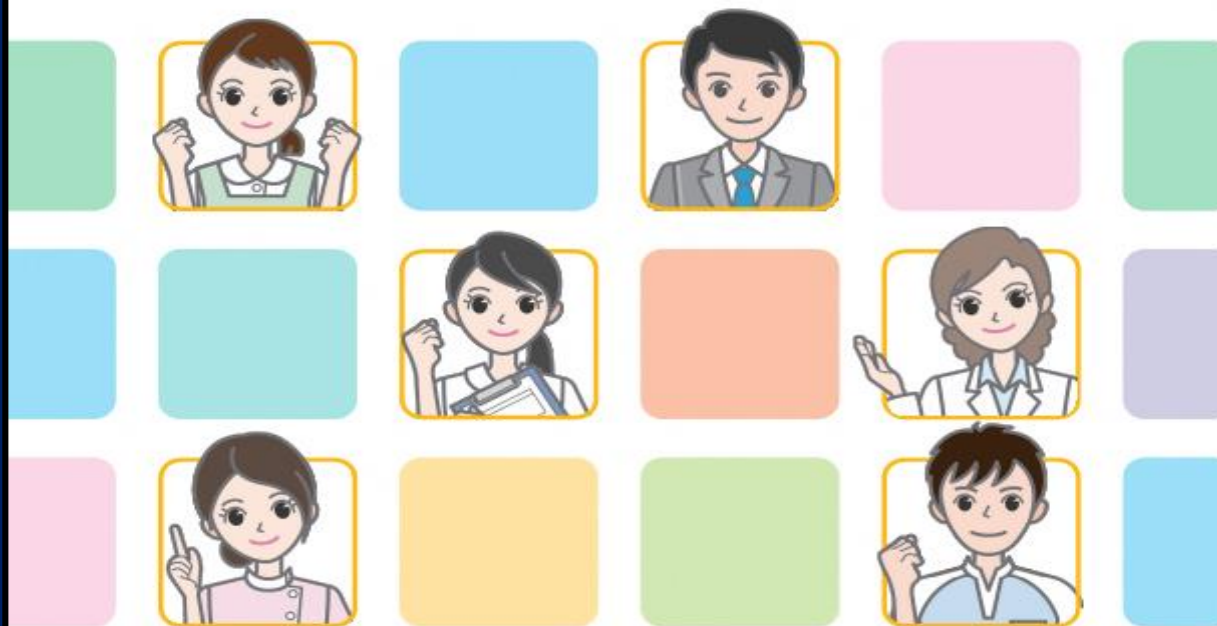
平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
アレルギー疾患に対する保健指導マニュアル開発のための研究

研究代表者 足立雄一  
富山大学大学院医学薬学研究部小児科学講座

# アレルギー疾患を有する者への対応が求められることが多い施設関係者等への研修資料

患者さんに接する施設の方々のための

## アレルギー疾患の手引き



厚生労働省補助事業(アレルギー情報センター事業)

アレルギー疾患を有する者への対応が求められることが多い施設関係者等への研修資料

## 患者さんに接する施設の方々のための アレルギー疾患の手引き

監修:西間 三穂(一般社団法人日本アレルギー学会顧問/国立病院機構福岡病院名誉院長)

### Contents

まえがき

東田 有智(一般社団法人日本アレルギー学会理事長/近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科教授)

<b>1</b> 成人アレルギー(喘息)	2
山口 正雄(帝京大学医学部内科学講座呼吸器・アレルギー学教授)	
<b>2</b> 喘息以外の成人の主なアレルギー	5
福富 友馬(国立病院機構相模原病院臨床研究センター診断・治療薬開発研究室長)	
<b>3</b> 小児のアレルギー	10
西間 三穂	
<b>4</b> 小児の喘息	16
藤澤 隆夫(国立病院機構三重病院院長)	
<b>5</b> 耳鼻咽喉科領域のアレルギー疾患	24
岡本 美孝(千葉大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学教授)	
<b>6</b> 眼科領域のアレルギー疾患	32
高村 悦子(東京女子医科大学眼科教授)	
<b>7</b> アレルギー性皮膚疾患—特に成人のアトピー性皮膚炎について	36
加藤 則人(京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学教授)	
<b>8</b> 小児のアトピー性皮膚炎	42
福家 辰樹(国立成育医療研究センターアレルギーセンター総合アレルギー科医長)	
<b>9</b> 食物アレルギー	46
海老澤 元宏(国立病院機構相模原病院臨床研究センター副センター長)	



# \* 保育所におけるアレルギー対応ガイドラインの見直し検討会

2018年11月16日 第1回（見直しの方向性）

2019年2月6日 第2回（改訂素案）

（この間、パブリックコメントを実施）

2019年3月13日 第3回（改定案）

## 【構成員】

今井 孝成（昭和大学医学部小児科学講座准教授、昭和大学病院小児医療センター一長）

北野 久美（社会福祉法人愛育会あけぼの愛育保育園 園長）

西間 三馨（独立行政法人国立病院機構福岡病院 名誉院長）

○ 平川 俊夫（公益社団法人日本医師会常任理事）

◎ 藤澤 隆夫（独立行政法人国立病院機構三重病院 院長）

宮本 里香（横浜市こども青少年局保育・教育人材課担当係長）

守屋 由美（大和市健康福祉部健康づくり推進課 係長）

渡邊 久美（目白大学看護部 助教）

◎座長

○座長代理

保育所におけるアレルギー対応ガイドライン  
(2019年改訂版)



厚生労働省

2019(平成31)年4月

保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表(食物アレルギー・アナフィラキシー・気管支ぜん息)

提出日 \_\_\_\_\_年\_\_月\_\_日

名前 \_\_\_\_\_ 男・女 \_\_\_\_\_年\_\_月\_\_日生(\_\_\_\_歳\_\_ヶ月) \_\_\_\_\_組

この生活管理指導表は保育所の生活において特別な配慮や管理が必要となった場合に限りて医師が作成するものです。

★保護者  
電話:  
★連絡医療機関  
医療機関名:  
電話:

アレルギー(あり・なし)	病型・治療		保育所での生活上の留意点		記載日
		<p><b>A. 食物アレルギー病型</b></p> <p>1. 食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎</p> <p>2. 即時型</p> <p>3. その他 (新生児・乳児消化管アレルギー・口腔アレルギー症候群・食物依存性運動誘発アナフィラキシー・その他: _____)</p> <p><b>B. アナフィラキシー病型</b></p> <p>1. 食物 (原因: _____)</p> <p>2. その他 (医薬品・食物依存性運動誘発アナフィラキシー・ラテックスアレルギー・昆虫・動物のフケや毛)</p> <p><b>C. 原因食品・除去根拠</b> 該当する食品の番号に○をし、かつ《》内に除去根拠を記載</p> <p>1. 鶏卵 《 _____ 》</p> <p>2. 牛乳・乳製品 《 _____ 》</p> <p>3. 小麦 《 _____ 》</p> <p>4. ソバ 《 _____ 》</p> <p>5. ピーナッツ 《 _____ 》</p> <p>6. 大豆 《 _____ 》</p> <p>7. ゴマ 《 _____ 》</p> <p>8. ナッツ類* 《 _____ 》 (すべて・クルミ・カシューナッツ・アーモンド・ _____)</p> <p>9. 甲殻類* 《 _____ 》 (すべて・エビ・カニ・ _____)</p> <p>10. 軟体類・貝類* 《 _____ 》 (すべて・イカ・タコ・ホタテ・アサリ・ _____)</p> <p>11. 魚卵* 《 _____ 》 (すべて・イクラ・タラコ・ _____)</p> <p>12. 魚類* 《 _____ 》 (すべて・サバ・サケ・ _____)</p> <p>13. 肉類* 《 _____ 》 (鶏肉・牛肉・豚肉・ _____)</p> <p>14. 果物類* 《 _____ 》 (キウイ・バナナ・ _____)</p> <p>15. その他 ( _____ )</p> <p>「*( )」の中の該当する項目に○をするか具体的に記載すること</p> <p><b>D. 緊急時に備えた処方薬</b></p> <p>1. 内服薬 (抗ヒスタミン薬、ステロイド薬)</p> <p>2. アドレナリン自己注射薬「エピペン®」</p> <p>3. その他 ( _____ )</p>	<p><b>A. 給食・離乳食</b></p> <p>1. 管理不要</p> <p>2. 管理必要(管理内容については、病型・治療のC. 欄及び下記C. E欄を参照)</p> <p><b>B. アレルギー用調整粉乳</b></p> <p>1. 不要</p> <p>2. 必要 下記該当ミルクに○、又は( )内に記入 ミルフィーHP・ニューMA-1・MA-mi・ペプディエット・エレメンタルフォーミュラ その他( _____ )</p> <p><b>C. 除去食品においてより厳しい除去が必要なもの</b> 病型・治療のC. 欄で除去の際に、より厳しい除去が必要となるものみに○をつける ※本欄に○がついた場合、該当する食品を使用した料理については、給食対応が困難となる場合があります</p> <p>1. 鶏卵: 卵殻カルシウム</p> <p>2. 牛乳・乳製品: 乳糖</p> <p>3. 小麦: 醤油・酢・麦茶</p> <p>6. 大豆: 大豆油・醤油・味噌</p> <p>7. ゴマ: ゴマ油</p> <p>12. 魚類: かつおだし・いりこだし</p> <p>13. 肉類: エキス</p> <p><b>D. 食物・食材を扱う活動</b></p> <p>1. 管理不要</p> <p>2. 原因食材を教材とする活動の制限( _____ )</p> <p>3. 調理活動時の制限 ( _____ )</p> <p>4. その他 ( _____ )</p>	<p><b>E. 特記事項</b> (その他に特別な配慮や管理が必要な事項がある場合には、医師が保護者と相談のうえ記載。対応内容は保育所が保護者と相談のうえ決定)</p>	<p>年 月 日</p> <p>医師名</p> <p>医療機関名</p> <p>電話</p>
気管支ぜん息(あり・なし)	<p><b>A. 症状のコントロール状態</b></p> <p>1. 良好</p> <p>2. 比較的良好</p> <p>3. 不良</p> <p><b>B. 長期管理薬(短期追加治療薬を含む)</b></p> <p>1. ステロイド吸入薬 剤形: 投与量(日):</p> <p>2. ロイコトリエン受容体拮抗薬</p> <p>3. DSCG吸入薬</p> <p>4. ベータ刺激薬 (内服・貼付薬)</p> <p>5. その他 ( _____ )</p>	<p><b>C. 急性増悪(発作)治療薬</b></p> <p>1. ベータ刺激薬吸入</p> <p>2. ベータ刺激薬内服</p> <p>3. その他 _____</p> <p><b>D. 急性増悪(発作)時の対応(自由記載)</b></p>	<p><b>A. 寝具に関して</b></p> <p>1. 管理不要</p> <p>2. 防ダニシーツ等の使用</p> <p>3. その他の管理が必要( _____ )</p> <p><b>B. 動物との接触</b></p> <p>1. 管理不要</p> <p>2. 動物への反応が強いため不可 動物名( _____ )</p> <p>3. 飼育活動等の制限( _____ )</p>	<p><b>C. 外遊び、運動に対する配慮</b></p> <p>1. 管理不要</p> <p>2. 管理必要 (管理内容: _____)</p> <p><b>D. 特記事項</b> (その他に特別な配慮や管理が必要な事項がある場合には、医師が保護者と相談のうえ記載。対応内容は保育所が保護者と相談のうえ決定)</p>	<p>年 月 日</p> <p>医師名</p> <p>医療機関名</p> <p>電話</p>

●保育所における日常の取り組みおよび緊急時の対応に活用するため、本表に記載された内容を保育所の職員及び消防機関・医療機関等と共有することに同意しますか。

- ・同意する
- ・同意しない

保護者氏名 \_\_\_\_\_

保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表(アトピー性皮膚炎・アレルギー性結膜炎・アレルギー性鼻炎) 提出日 \_\_\_\_\_年\_\_月\_\_日

名前 \_\_\_\_\_ 男・女 \_\_\_\_\_年\_\_月\_\_日生(\_\_\_\_歳\_\_ヶ月) \_\_\_\_\_組

この生活管理指導表は保育所の生活において特別な配慮や管理が必要となった場合に限りて医師が作成するものです。

アレルギー疾患	病型・治療			保育所での生活上の留意点		記載日
	アトピー性皮膚炎 (あり・なし)	<b>A. 重症度のみやす(厚生労働科学研究班)</b> 1. 軽症:面積に関わらず、軽度の皮疹のみみられる。 2. 中等症:強い炎症を伴う皮疹が体表面積の10%未満にみられる。 3. 重症:強い炎症を伴う皮疹が体表面積の10%以上、30%未満にみられる。 4. 最重症:強い炎症を伴う皮疹が体表面積の30%以上にみられる。 ※軽度の皮疹:軽度の紅斑、乾燥、落屑主体の病変 1. 食物によるアナフィラキシー (原因: 2. その他 ※強い炎症を伴う皮疹:紅斑、丘疹、びらん、浸潤、苔癬化などを伴う病変			<b>A. プール・水遊び及び長時間の紫外線下での活動</b> 1. 管理不要 2. 管理必要 ( )	
<b>B-1. 常用する外用薬</b> 1. ステロイド軟膏 2. タクロリムス軟膏(「プロトピック®」) 3. 保湿剤 4. その他( )		<b>B-2. 常用する内服薬</b> 1. 抗ヒスタミン薬 2. その他( )	<b>C. 食物アレルギーの合併</b> 1. あり 2. なし	<b>B. 動物との接触</b> 1. 管理不要 2. 動物への反応が強いため不可 動物名 ( ) 3. 飼育活動等の制限 ( ) 4. その他 ( )	<b>D. 特記事項</b> (その他に特別な配慮や管理が必要な事項がある場合には、医師が保護者と相談のうえ記載。対応内容は保育所が保護者と相談のうえ決定)	医師名  医療機関名  電話
アレルギー性結膜炎 (あり・なし)	<b>A. 病型</b> 1. 通年性アレルギー性結膜炎 2. 季節性アレルギー性結膜炎(花粉症) 3. 春季カタル 4. アトピー性角結膜炎 5. その他( )			<b>A. プール指導</b> 1. 管理不要 2. 管理必要(管理内容: ) 3. プールへの入水不可		年 月 日
	<b>B. 治療</b> 1. 抗アレルギー点眼薬 2. ステロイド点眼薬 3. 免疫抑制点眼薬 4. その他( )			<b>B. 屋外活動</b> 1. 管理不要 2. 管理必要(管理内容: )		医師名  医療機関名  電話
アレルギー性鼻炎 (あり・なし)	<b>A. 病型</b> 1. 通年性アレルギー性鼻炎 2. 季節性アレルギー性鼻炎(花粉症) 主な症状の時期: 春、夏、秋、冬			<b>A. 屋外活動</b> 1. 管理不要 2. 管理必要(管理内容: )		年 月 日
	<b>B. 治療</b> 1. 抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬(内服) 2. 鼻噴霧用ステロイド薬 3. 舌下免疫療法 4. その他			<b>B. 特記事項</b> (その他に特別な配慮や管理が必要な事項がある場合には、医師が保護者と相談のうえ記載。対応内容は保育所が保護者と相談のうえ決定)		医師名  医療機関名  電話

●保育所における日常の取り組みおよび緊急時の対応に活用するため、本表に記載された内容を保育所の職員及び消防機関・医療機関等と共有することに同意しますか。

- ・同意する
- ・同意しない

保護者氏名 \_\_\_\_\_

# アレルギー疾患対策推進協議会委員名簿

(平成31年3月28日現在)

委員名	所属・役職
朝倉 敬子	東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野 准教授
浅野 明美	茨城県常陸太田市立世矢小学校 養護教諭
浅野 浩一郎	東海大学医学部内科学系呼吸器内科学 教授
荒木田 美香子	国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科長
海老澤 元宏	独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センター副臨床研究センター長
岡本 美孝	国立大学法人千葉大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学教授
加藤 則人	京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学教授
桐谷 利恵	NPO法人千葉アレルギーネットワーク 副理事長
迫 和子	公益社団法人日本栄養士会 専務理事
佐藤 真奈美	公益社団法人日本歯科医師会 理事
田野 成美	大阪狭山食物アレルギー・アトピーサークル「Smile・Smile」 代表
東田 有智	近畿大学医学部附属病院 病院長 一般社団法人日本アレルギー学会 理事長
中澤 よう子	神奈川県 医務監
新田 裕史	国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康研究センターフェロー
服部 佳苗	ピアサポートF.A.cafe(NPO法人認証申請中)代表
藤澤 隆夫	独立行政法人国立病院機構三重病院 院長
松本 吉郎	公益社団法人日本医師会常任理事
松本 健治	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 部長
南 砂	読売新聞東京本社常務取締役調査研究本部長
矢上 晶子	藤田医科大学総合アレルギーセンター 副センター長



 : 協議会長

(五十音順・敬称略)

# 第3章 経済再生と財政健全化の好循環

---

## 2. 経済・財政一体改革の推進など

### (2) 主要分野ごとの改革の取組

#### ① 社会保障

(予防・健康づくりの推進)

(iii) 健康増進に向けた取組、  
アレルギー疾患・依存症対策

「・・・アレルギー疾患の重症化予防と症状  
の軽減に向けた対策を推進する。・・・」



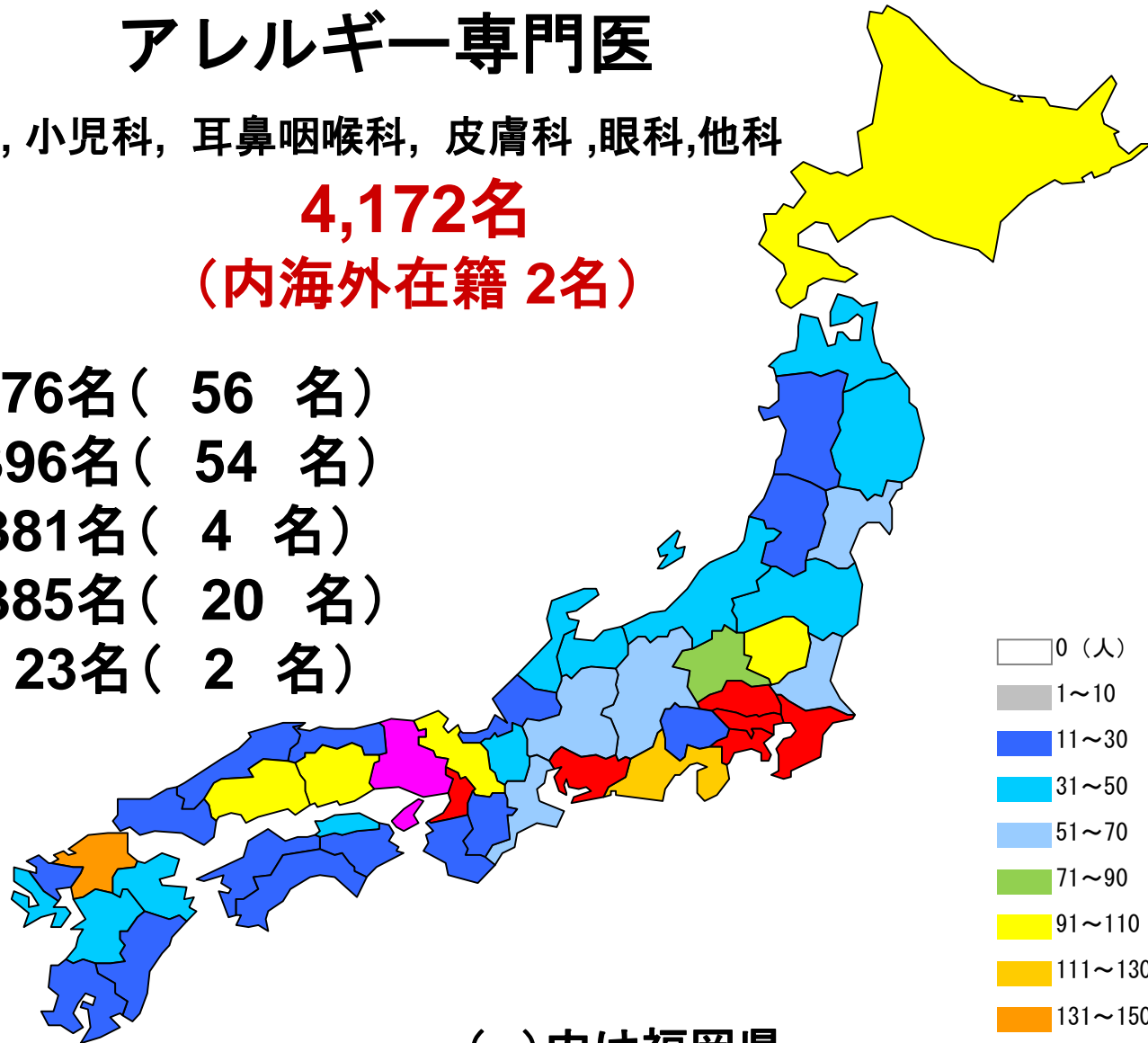
図16. アレルギー疾患対策基本法に関わる職種・組織

# アレルギー専門医

内科, 小児科, 耳鼻咽喉科, 皮膚科, 眼科, 他科

**4,172名**  
(内海外在籍 2名)

内科	1976名	( 56 名)
小児科	1396名	( 54 名)
耳鼻科	381名	( 4 名)
皮膚科	385名	( 20 名)
眼科	23名	( 2 名)

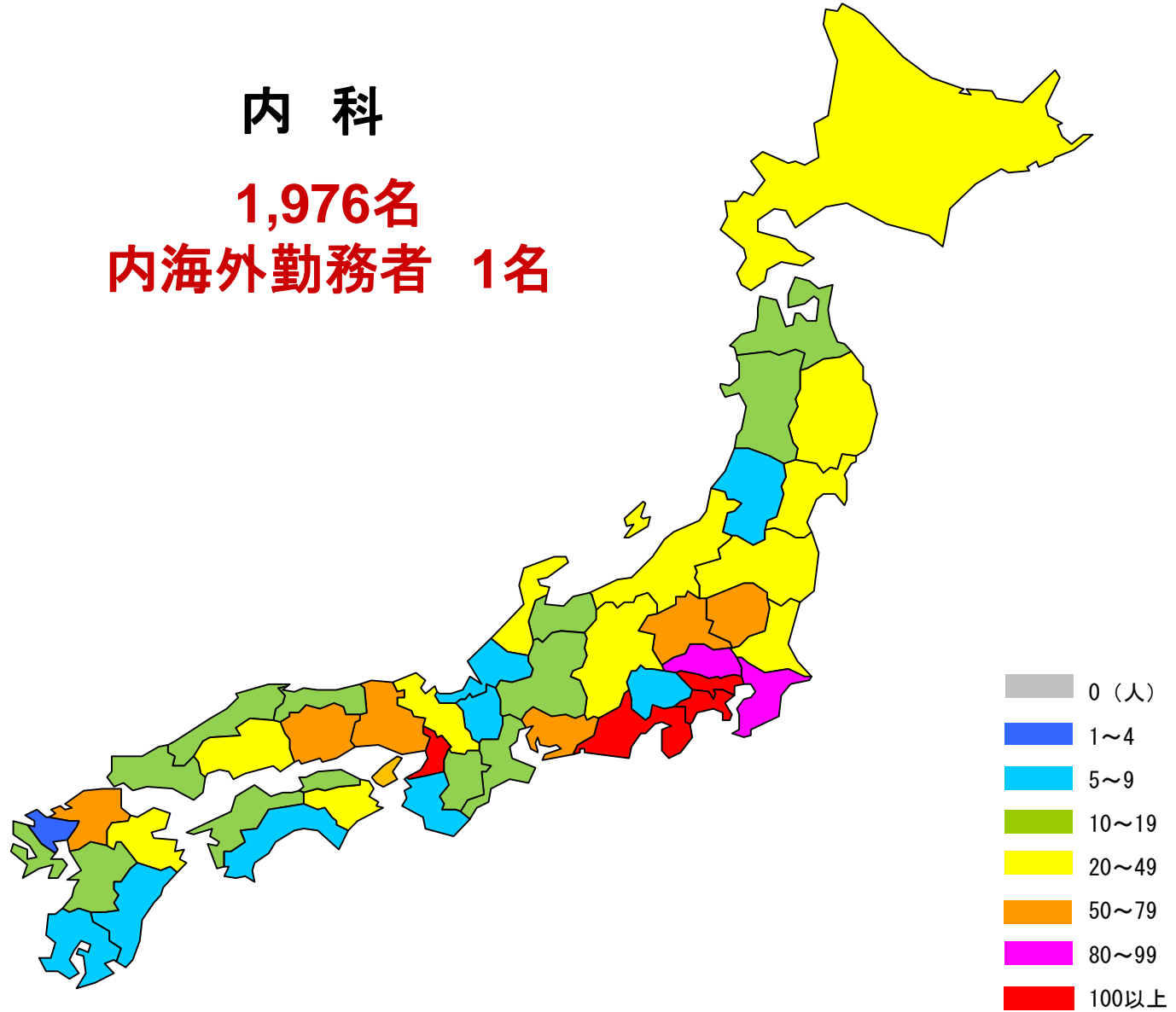


( )内は福岡県



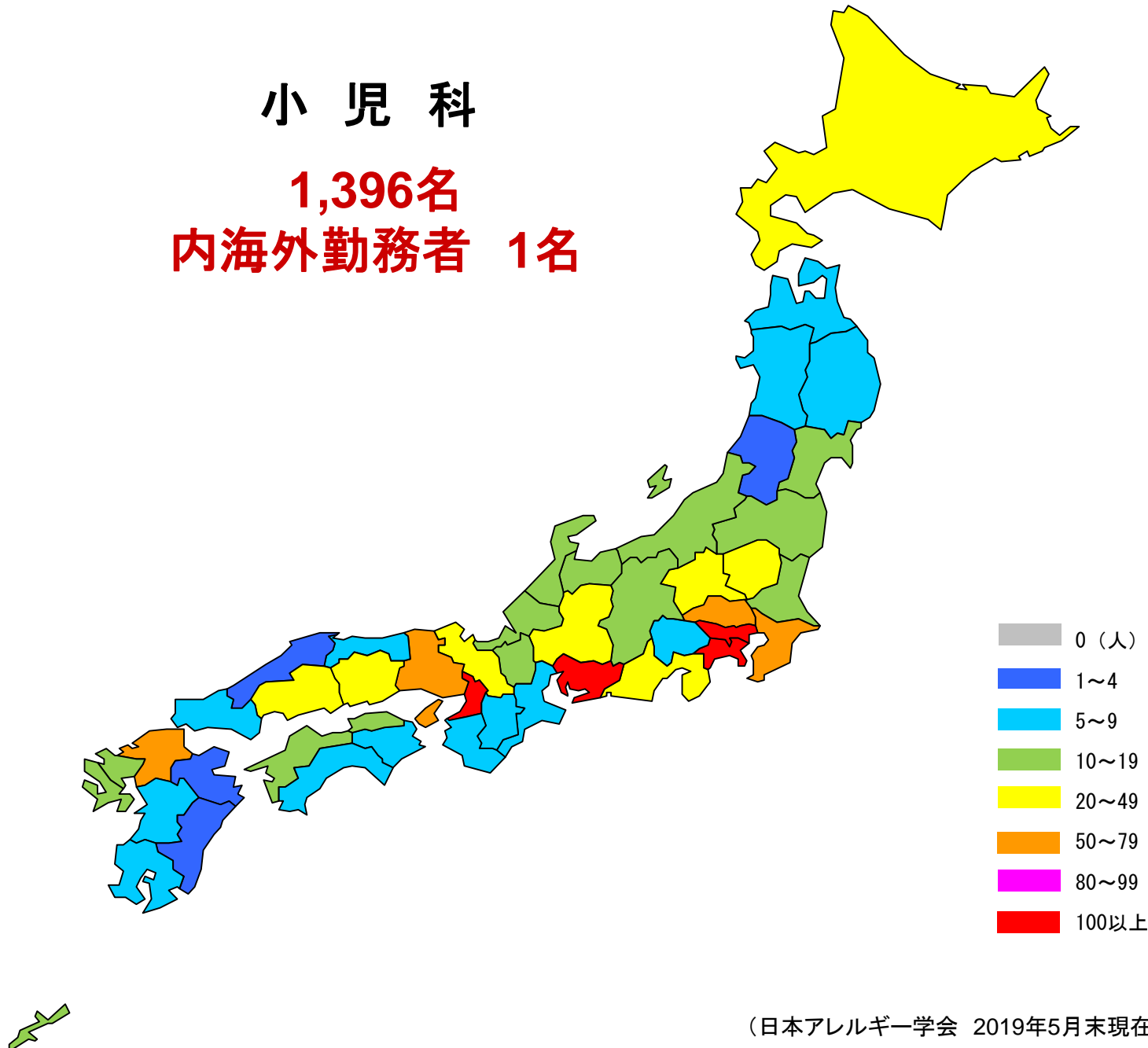
# 内科

1,976名  
内海外勤務者 1名



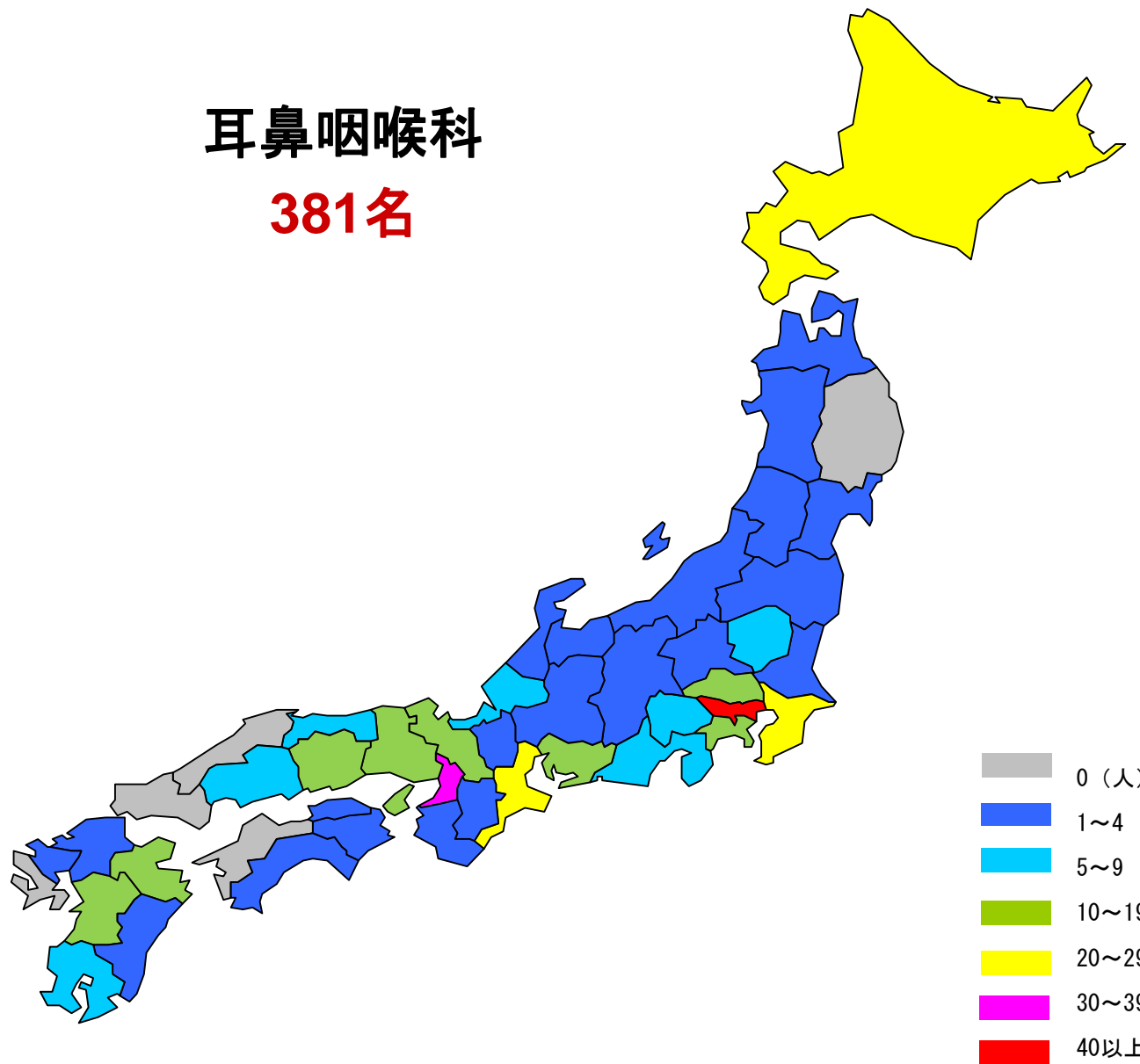
# 小児科

**1,396名**  
**内海外勤務者 1名**



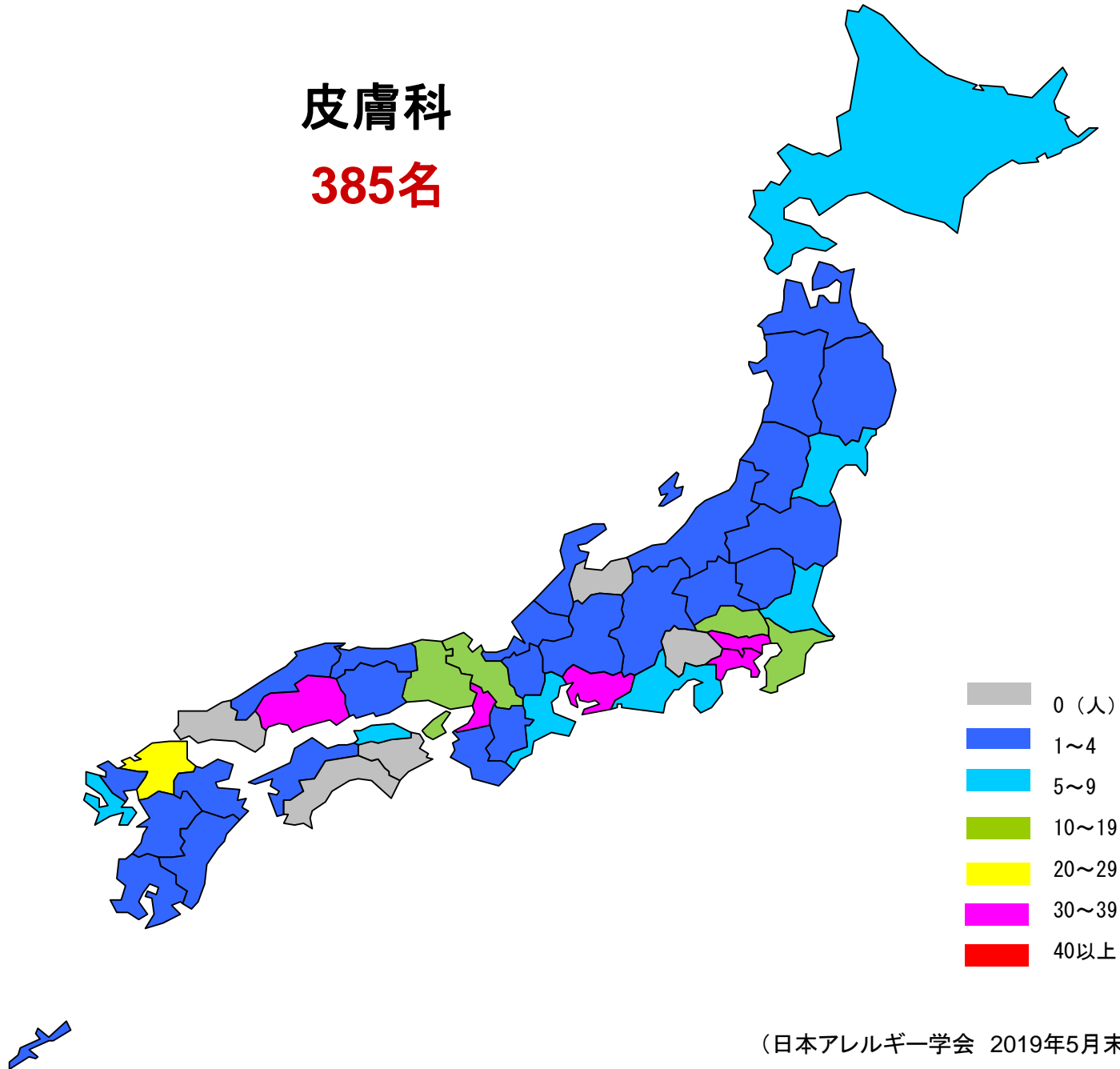
# 耳鼻咽喉科

381名



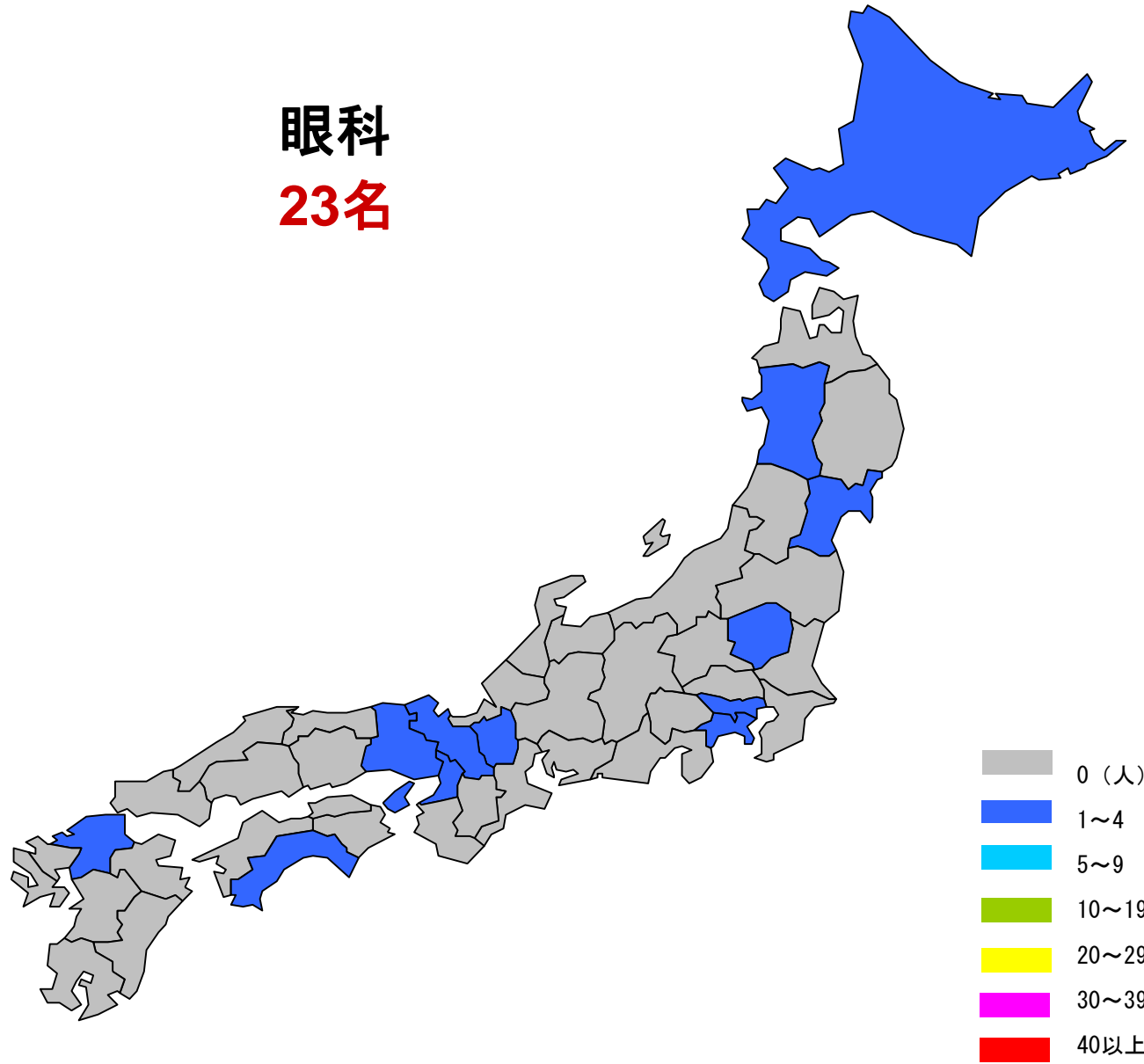
# 皮膚科

385名



(日本アレルギー学会 2019年5月末現在)

眼科  
23名





END